

危険物取扱者甲種試験を通して学んだこと

1 学校紹介

新潟県立新潟工業高等学校は昭和14年に開校し、新潟県内の工業高校の中心校としての伝統と、自ら学ぶ精神の育成を図る「自主創造」の校風があります。スペシャリストの養成校として企業の信頼も厚く、スポーツが盛んですが、国公立大学をはじめ、私立工業系大学への進学者も多数います。令和6年度より学科改編され、「ミライ創造工学科」として7クラス280人が一括募集になり、本県初の「IT工学科」が新設され、メカトロニクス工学科、環境化学科、都市工学科、建築工学科の5つの分野に分かれて学びます。

2 危険物取扱者試験を受験したきっかけ

私が危険物取扱者の試験を受験するきっかけは、化学分野の資格試験に興味があったからです。本校工業化学科に入学する前から、化学関係の資格を調べており、それら資格試験のサポートを本校工業化学科で行っていることが分かり、1年生のうちに甲種試験に合格することを目標にしていました。

3 乙種4類の取得に向けて

私はこれまで資格試験を勉強したことが無かったので勉強方法が分かりませんでした。参考書を購入し、出題傾向等を把握することにより勉強の優先順位を付けることができ、短期間で効率よく合格点に達することができました。暗記の面で大事にしたことは、通学時間などの隙間時間を利用したアウトプット中心の学習です。その中で模擬問題を用いた学習をすることで、試験に慣れることができました。また、出題される内容に興味関心を持ち、日常生活と結びつけました。例えば、給油取扱所(ガソリンスタンド)を訪れた際に、ガソリンと軽油の違いを確認したり、標識を見つけることで理解しやすくなります。

4 乙種全類の取得に向けて

甲種試験の受験資格として、乙4の他に指定の類を3種類以上取得する必要がありますが、私は全類の取得を目指しました。私は乙4に合格していたため、「危



金子 柊斗 かねこ しゅうと
新潟県立新潟工業高等学校
工業化学科 3年



校舎全景・空撮

険物の性質並びに火災予防および消火の方法(性質消火)」の分野のみの受験になりました。他類の勉強方法で苦戦したことがいくつかあります。まず、未知の物質が多く出題されることです。4類のガソリンや軽油等に比べて、過塩素酸やピクリン酸等の分からない物質が多く、授業で使う資料集や先生に実物を見せてもらう等をしてもらい、イメージがしやすくなるような工夫をしたり、インターネットでそれらの歴史背景や起因した事故等を調べることで、長期の記憶に繋げることができました。また、性質が似ている物質が多いことに苦労しました。5類と6類は特徴的な物質が多く、容易に勉強できましたが、1類と3類は塩素酸カリウムや塩素酸ナトリウムなどの物質名や性質が似ているものが多くあり、問題の解法には混乱しました。そのため、潮解性や水との反応性の性質等に注目して暗記しました。例えば、「潮解性があるのは硝酸ナトリウムと過酸化カリウム、水と反応するのは過酸化ナトリウムや次亜塩素酸カルシウム・・・」のように、語呂合わせを用いました。このように、乙4とは異なる難しさがありましたが、苦勞の甲斐があり全ての類を1回目で合格できました。

5 甲種の取得に向けて

1年生の3月実施の甲種試験に向けて、1月から本格的に勉強を開始しました。甲種の法令では、乙種に比べて細かい数値や全類の指定数量を覚える必要があるため、暗記する内容が格段に増えました。性質消火では、全ての類から出題されるため範囲が広く覚える必要がありましたが、一番苦労したのが物理化学です。この分野では本校本科の2学年で学習する内容が出題され、有機化学や化学平衡論、対数を用いたpH計算等はレベル的に非常に難しかったです。

私が甲種に合格できたのには、2つの大きな支えがありました。1つ目は担当の先生が行ってくださった補習です。そこでは、物理化学の分野で、反応速度論や化学平衡論を昼休みや放課後などの貴重な時間を割いてご指導いただき、甲種受験まで安心して学習に取り組むことができました。2つ目は先輩からの助言、励ましの言葉です。私が所属している山岳部に甲種を取得している先輩がおられ、良い参考書を紹介してもらったり、勉強方法についてアドバイスをいただきました。化学の専門分野についての雑談する時間が持て、専門知識を得ると同時に大変良い息抜きの時間になりました。私が1回目で合格できた際にも、自分の事のように喜んでくださり、心の底から嬉しかったです。



高校生ものづくりコンテスト
(新潟県大会)



山岳部
本人(左)、先輩2名(右:共に甲種取得者)

6 甲種試験合格後の学校生活

2年生になって、私の友人が甲種試験を受験することになり、学習の手助けを行うことになりました。その際にしたアドバイスは、規則性や理論を説明し、暗記する箇所を減らすことや、出題されやすい箇所の優先度を割り当てることでした。彼は夕方遅くまで熱心に私の解説を聞いてくれ、1回目で合格でき、感謝の言葉を貰ったときは大変嬉しく思いました。その後、「高圧ガス製造保安責任者(乙種化学)」試験の全科目受験で合格することができましたが、専門外の内容が多くなり苦労しました。

7 最後に

「甲種試験に1学年で合格する」という目標を無事に達成できたことが大きな自信になり、同時に勉強を楽しんでやることの大切さや努力を継続することの重要性に気づくことができました。甲種試験に合格できたのは、周囲の支えがあったからこそ実現できたので、家族や先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、甲種試験の勉強を通して、化学の知識が深まり、危険性を改めて確認することができました。将来的には甲種試験で学んだことを活かせる仕事に携わりたいです。

危険物取扱者甲種合格までの道のり

1 乙種第4類受験のきっかけ

私は高校卒業後に就職を考えています。就職で有利になるためには資格をいくつか持っていたほうがいいと先生や親に言われていて、私自身も就職後に業務に活かすために様々な資格を取りたいと考えていました。危険物取扱者の資格受験のきっかけは、工業化学の授業を受けるなかで先生から紹介されたことです。高校入学前からこの資格は取りたいと思っていて、まずは比較的身近な石油類の取り扱いが中心で実用性が高い乙種第4類を取得しようと決意しました。

2 乙種第4類取得まで

私は今まで資格を取得したことがなく、どのくらいの時間をかけてどのように勉強すればいいのか、本当に合格できるのか、とても心配でした。いざ勉強しようとテキストを開くと、ガソリンや灯油、アルコール類など知っている物質の名前が多く載っていました。しかし、それらの性質や特徴について問われるとほとんど分からず、「こんなに覚えなくてはいけないのか」と不安な気持ちになりました。法令の科目に関しては完全に0からのスタートで、膨大な専門用語にいつそう不安が大きくなりました。物理・化学の科目は化学基礎や工業化学などの普段の授業で学んだことが多く、7割くらいはすでに理解している内容でした。熱伝導率や体膨張率の問題は知らなかったもので、テキストで計算の仕方を学び、解けるようにしました。自信をもてる科目が1つでもあることは安心材料となり、他の科目を勉強するモチベーションにもつながりました。

乙種第4類の勉強を進めていくなかで大きな助けになったのは、学科の先生が開いてくださった対策講座です。試験によく出るポイントや計算問題の考え方を教えてもらったり、過去問の採点や解説をしてもらったりしました。また、要点をまとめた暗記シートを配ってくださった先生もいて、とてもありがたかったです。

私の主な勉強方法は、テキストを読み、過去問を解き、間違えた問題を見直すというシンプルなものでした。最初はテキストを読んでもなかなか頭に入らず、ほとんど正解できませんでした。しかし、2回3回と繰り返し



池ヶ谷 夏輝 いけがや なつき
静岡県立科学技術高等学校
電子物質工学科 3年

していくとだんだん内容を覚えてきて正答率もしだいに上がっていきました。また、電車通学中にスマホアプリで問題を解いたり、休み時間に暗記シートを確認したりするなど、隙間時間を有効活用することを意識して勉強しました。定期テストや文化祭の準備など学校行事も重なり、大変なときもありましたが、約2ヶ月間一生懸命勉強しました。そのため、自信をもって試験に望むことができ、高校1年生の12月、無事に合格することができました。安堵と喜びで胸がいっぱいになったのをよく覚えています。

3 乙種第3類、5類、6類取得まで

乙種第4類に合格してすぐに「次は甲種を取りたい」と強く思いました。消防法に定められているすべての危険物を取り扱うことができ、保安監督業務もできるという点に加えて、危険物取扱者資格のなかでも最上位資格の甲種を取れたらカッコいいと思ったからです。甲種受験資格を手に入れるために、3類、5類、6類を一度に受験しました。法令と物理・化学が免除され、性質・消火に集中して勉強できました。しかし、異なる類を3つ同時に勉強することは、多くの聞いたことのない物質を覚え、どの物質がどの性質にあてはまるのか頭の中で整理するのにとても時間がかかり苦労しました。勉強方法は4類のときと同じでしたが、ほとんど自主学习だったのでやる気がおきず怠けてしまったときがあったことが反省点です。「絶対に3つとも受かる」と決意して勉強し、なんとか合格を掴み取ることができました。こうして、高校1年生の終わりに甲種取得のスタートラインに立つことができました。



4 甲種取得まで

高校2年生の6月、いよいよ甲種の試験に挑みます。3類、5類、6類を取ってから少し期間が空き、忘れていた部分が結構ありました。4類に関してはかなり前のことなので、法令も性質・消火もほとんど覚えていませんでした。これらの覚え直しに加えて、1類、2類は完全にゼロからのスタートでした。1～6類までのすべての物質の性質や消火方法を覚えなくてははいけません。しかし、すべて完璧にするのはあまりにも厳しいと思い、テキストで重要マークがついているものや過去問でよく出ているものを中心に勉強しました。問題数が20問と今までの倍になり不安でしたが、この勉強方法でもある程度余裕をもって合格ラインを満たすことができました。今思えば、性質・消火の科目に集中しすぎずに他の科目に時間をまわせたのでよかったと思います。

勉強していくなかで大きな壁になったのが物理・化学の科目でした。4類のときには自信のあった科目でしたが、甲種では本格的な知識や応用が求められ、難易度が上がっていました。はじめに過去問を解こうとしたときには全く歯がたたない問題が何問もあり、テキストやインターネットで調べたり、それでもわからないところは先生に質問したりしました。特に有機化合物や熱化学方程式を勉強するのに苦戦しました。物理・化学は暗記というよりは理解すれば解けるようになる科目なので、早めに勉強を始めるのがいいと思います。

法令の科目もかなり苦労しました。実は本番の試験を終えて「落ちたかも」と思ったのは法令でした。4類のときよりも細かい箇所まで問われ、詳しい知識が必要とされます。指定数量の問題は毎回必ずと言って

いほどるので、テキストに載っていた語呂合わせを使って覚えました。貯蔵・取り扱い基準や保安距離、運搬・移送など覚えるのを無理だと思わせる膨大な量でしたが、隙間時間を利用してコツコツ勉強しました。

試験日の一週間前に定期テストがあり、テスト期間にはほとんど甲種の勉強ができなかったのが、テスト後には全力で追い込みました。他の資格にも挑戦したかったため、「絶対合格」という強い意思をもって当日の試験に望みました。とても緊張しましたが、落ち着いて問題を解き、見直しもしっかりできました。合格発表までは本当に不安で、正直落ちたかと思っていました。インターネットで自分の受験番号を見つけたときには言葉にならないほど嬉しかったです。合格通知のハガキが届いて改めて合格を実感し、誇らしい気持ちになりました。ずっと勉強をサポートしてくれた先生や家族には心から感謝しています。

5 終わりに

危険物取扱者試験を通して、物事に一生懸命取り組むことの大切さと成し遂げたときの達成感を知りました。将来的にこの資格を使うかはまだわかりませんが、この経験から得られたものはとても大きいと思います。今は電子系や情報系の資格取得に向けて日々努力しています。「継続は力なり」という言葉の通り、努力を続ければ必ず結果がついて来ると思います。甲種取得の経験を自信にして、これからの勉強も頑張っていきます。

甲種危険物取扱者試験を振り返って思うこと

1. 受験のきっかけ

私の通う石川県立工業高等学校では、1年生の時に危険物取扱者乙種第4類の補習が開かれます。私もそれに参加したのですが、その時に先生から甲種の内容を教えてくださいました。

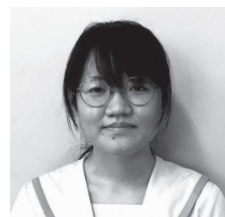
校内での合格者数は少なく、当時は乙種第4類だけで精一杯だったので、甲種は遠い存在のように思いました。しかし、いつか取得出来たらという興味もそこで生まれたものでした。

それから順調に危険物の試験に合格し続け、1年生の内に危険物乙種全類を取得することが出来ました。危険物取扱者資格取得の1つの区切りが達成できた事と憧れの先輩に少し追いつけたかのように思えた事が大変嬉しかったです。先生方やクラスメイトにも祝福してもらえたのですが、その時に甲種を受けるのか否かという話になりました。他に受けたい資格もなく、折角なので受けてみる事にしました。

2. 勉強方法

受験を決めてから間もなくして参考書を選びました。本当は、解説と過去問を購入出来たら良かったのですが、1冊毎の値段が高額だったので問題が沢山載っているものを1つ選んで購入しました。

まず、大まかな内容を思い出そうと参考書を一通り読む事にしましたが、すぐにやめました。なぜなら、全く頭に入らなかったからです。解説は解りやす



宮川 宙 みやかわ そら

石川県立工業高等学校
材料化学科 3年

かったのですが、危険物の勉強は特別面白いわけでもないで、余り集中出来ませんでした。読んで学ぶのは、自分には不向きだったようです。そこで、乙種をどのように勉強していたか思い出してみました。乙種第4類の時は、補習で教えられた事を自主的にノートに纏めていました。しかし、ノートに書いて覚えるやり方は非常に時間と労力がかかります。甲種という広い範囲で同じことをする元気が熱意が私には有りませんでした。乙種第4類以外の乙種試験は、補習が無かった為、自分自身で勉強をしなければなりませんでした。そういう意味では甲種と状況が似ており、参考になりそうです。乙種第4類以外の時は、まずYouTubeなどの動画で大まかな内容を知り、徐々に覚えていくという流れでした。早速調べていくと甲種の動画があったので、この勉強方法で進める事にしました。動画は時間がかからず、目と耳で覚えられるので効率が良かったです。物理の計算問題で解らない所は、先生に聞くと親切に教えて下さいました。そうして内容を覚えていったら、沢山の問題を解く事が出来るようになりました。間違えた所を覚え直し、理解出来ていない部分は、解説ページに戻って読み直すということを繰り返す事で誤答がどんどん減っていきました。自分の成長が手に取るようにわかることが少し良かったです。

3. 受験状況

試験当日は、要点とよく間違えた点を纏めた紙を持参しました。これも乙種試験で実施していた事です。また、試験開始時間を勘違いして遅刻しそうになった事が過去にあったので、かなり早く家を出ました。私は学校で受験したので、自分の教室で時間まで待つ事にしました。よく知った場所では集中して復習が出来ました。また、クラスメイトと顔を合わせる事で緊張





が少し治まりました。しかし、時間が近づくにつれて不安が大きくなってきました。受験にかかった費用や時間が無駄になったらどうしようという焦りが止まらなかったのです。しかし、指定された教室へ行くと、よく知った先生がおられました。その先生は普段から元気に挨拶して下さる素敵な先生です。いつものように挨拶され、甲種試験の応援も頂きました。それと同時に私の中の不安もずっと消えました。先生にとっては当たり前の行動でも、私にとっては応援であり激励でもありました。

その後は、落ち着いて試験に臨めました。解らない問題もありましたが、全く焦らず、丁寧に解いていきました。また、時間のある限り見直しをしようのですが、過去に見直しで解答を変更した事で不合格になったことがありました。その反省を踏まえて、必要以上の見直しをせずに終わりました。勉強の成果をしっかりと出し切れた試験だったと思います。

4. 資格取得後の状況

危険物取扱者甲種試験の合否発表は、試験から3週間程かかりました。最初は、手応えが有ったのですが、日が経つにつれて自信が無くなっていきました。ハガキが届いたときは、本当に開きたく無かったです。でも、腹を括って開けてみると合格でした。一瞬信じられなかったけど、凄く嬉しかったです。これで私は、我が石川県立工業高等学校 材料化学科で10人目の甲種合格者となりました。また、2年になってすぐの試験でしたので、校内最速の合格者となりました。努力が実ったような、報われたような気持ちでした。この経験のおかげで少し自分に自信がついたように思います。また、"難しい資格も諦めず勉強すれば合格できる"という良い体験になりました。扱うことの出来る危険物

は乙種全類と変わらない為、一見無駄に思えるかも知れません。しかし、確実に自分の成長に繋がる出来事でした。

5. 資格全般で振り返っての感想

私は高校に入って色々な資格を取得して来ました。その中でも危険物取扱者甲種は難しい資格でした。しかし、思い返してみればそれほど怖がる必要も無かったと思います。1番大変だったのはエックス線作業主任者です。勉強を始めても殆ど理解出来ず、試験1週間前でも過去問が合格点に届かない等、苦しい日々を過ごしました。しかし、危険物甲種での経験が心の支えになり、最後まで勉強し続け、無事に合格しました。甲種の経験が無ければ合格しなかったと思います。また、他の資格も糧となりました。すぐに役立つものでなくても視野が広がったり、場慣れしたりなどが私の力になりました。

危険物取扱者甲種資格は便利ですし、人として成長するきっかけになるかも知れないので、皆さんも是非受験してみてください。でも、お金がかかるので、乙種全類を取りきる前に受けたらいいかなと思います。



《強度試験機での測定》

危険物取扱者の合格を目指して

危険物取扱者試験を受験した動機

私は、高知工業高校の工業化学科に入学して、クラス全員で危険物取扱者の乙種第4類を受験すると知らされた時、初めて危険物取扱者という資格があることを知りました。私は高校卒業後に、化学系の製造業に就職したいと考えていたので、より多くの危険物を扱えたほうがいいなと思ったのと、就職する時の自己アピールにもなると思ったため資格試験に全力で挑みました。

乙種取得に向けて

私は危険物取扱者の全種を取得することを目標にして、その1歩目である乙種第4類を受験しました。

でもテキストを読んでいざ勉強をしてみても、書いてあることがほとんど理解できず、どうしてそうなるんだという感じでした。先生が行ってくれる補習に参加したものの危険物の指定数量を覚えたり、製造所等の設備・構造等の基準を覚えたりと、とにかく覚えることが多く複雑で大変だと感じました。

しかし何回も問題を解いて分からないところが分かるようになるたびに勉強に対する苦手意識がなくなり、勉強するのが楽しいと思えるようになりました。法令はいけるなと思い物理化学の勉強を始めたのですが、習っていない所がほとんどで計算問題が苦手だったので、特に力を入れて頑張りました。性質・消火は興味のある科目だったのですぐに理解することができました。試験日の1ヶ月前ぐらいから過去の模擬テストを解



〈実習風景 1〉



中村 倫太郎 なかむら りんたろう
高知県立高知工業高等学校
工業化学科 3年

き、間違った所を重点的に勉強しました。

問題を覚えるぐらい繰り返し解いたおかげか、試験日には落ち着いて問題を解くことができました。そして無事、一発で合格することができました。次に乙種第1類・3類・5類を同時に受験しました。

私は乙4を持っているので法令と物理化学の全問が免除になり性消だけだったので乙4よりも勉強しやすかったです。個人的には1類と5類が難しく感じました。似た名前の物品が多く、形状、色、潮解性などを、1つ1つ覚えるのが大変でした。5類は名前の長い物品が多く「アゾビスイソブチロニトリル」のように、言いにくいし覚えにくい物があったので少し苦戦しましたが、3類の勉強は比較的簡単でした。試験の時には自信をもって問題を解くことができ、8割9割の点を取り3つとも1度で合格することができました。

甲種取得に向けて

私は危険物取扱者の乙種を全て取得するのが目標だったのですが、先生に甲種を受けてみないかと提案され、挑戦しようと決めました。難しい資格に対して自分がどこまで頑張れるのかを試したいと思ったからです。

甲種の勉強をするためにテキストを買って読んでみたところ、3つの科目の中で物理化学が明らかに難しくなっていることに気づきました。範囲が広いうえに習っていない計算問題や語句が出てくるので、甲種は難しい資格だと実感しました。

自主勉強だけでは理解が追い付かないと思い、先生が行ってくれる補習にも積極的に参加しました。夏休みのほとんどが部活と試験勉強の両立で心が折れかけていました。ですが、継続は力なりという言葉信じ、8月は物理化学を主に勉強し、9月は法令と性消の勉強を中心にとりくみました。乙4の法令よりも覚えること



〈実習風景 2〉

が増えていたので時間がかかったのですが、法令の模擬テストでは8割ぐらいの点を取ることができました。性消ではまだ勉強をしていない2類と6類の勉強から始めました。2類と6類は他の類よりも覚えることが少なくすぐに理解することができたのですが、1類と5類の勉強をし直すのに苦労しました。性消の模擬テストを解いた時にだいたい8割以上は取れていたもので、法令と性消は自信がありました。

しかし、9月になっても物理化学では、分からないところ何箇所もありました。水素イオン指数の対数を使う問題や静電気の計算問題のように、とにかく計算問題が苦手でした。そこで、過去の模擬テストを手当たり次第に解きあさり、間違ったところを何度も解き直し、問題の傾向を覚え理解を深めました。試験日が10月22日で、10月の初めには体育祭がありその後には中間考査、そしてその次の日曜日に危険物取扱者の試験がありました。

私は体育祭を終えた後すぐにインフルエンザにかかり完全にダウンしてしまいました。しかし試験まで2週間しか時間がないうえに1週間後には中間考査があるので、寝ないでひたすら中間考査と危険物の勉強をしました。

私は甲種を取得できるのかと不安を抱えつつ試験日を迎えました。会場の待機場所で、1通りテキストを読み、同じ甲種を受ける友達と少し話をして、試験に挑みました。過去の模擬テストを何度も解いたおかげか問題の内容をすぐに理解することができて、自然に答えが頭に浮かんできました。しかし、性消だけは、問題の出され方が乙種とは違うことに気づきました。

私が解いてきた問題のほとんどが誤っているものはどれか、適切なものはどれかと聞かれていたのに対して、試験の問題の多くが適切でないものはいくつあるかのよう、数で答える問題がほとんどでした。



〈部活動〉

だからこそ、たくさん問題を解き、繰り返し勉強をするやり方は成功したと思いました。三回ほど問題を解きなおし試験を終えました。

試験が終わった後は、合格したという自信がわいていました。でも、合格発表日が近づくにつれ自信より不安が大きくなり、まだ何かできることがあったのではと、発表もされてないのに後悔していました。合格発表の日が来て、休み時間に恐る恐るホームページを見ました。

結果は無事に合格することができました。今まで感じていた焦り、不安が消し飛び、ただただ達成感があり、嬉しかったです。あの日は、早く帰って親に見せたいという気持ちでいっぱいでした。

最後に

甲種を取得することは一人では絶対に無理だったと思います。先生が背中を押してくれなければ、甲種に挑戦しようとすら思っていなかったし、補習の時にほかの生徒が休んで、私しかいなかった時も1対1で補習をしてくれました。

また、家族の応援やサポート、応援してくれる仲間がいたから最後まで頑張れたのだと思います。甲種を取得できただけではなく、取るまでの過程でもたくさんのことを学ぶことが出来ました。

高知県では9年ぶりの高校生合格ということで高知新聞さんにとりあげていただきラジオにも出演することが出来ました。このことは高校生活の中で素晴らしい思い出になりました。私も、誰かの背中を押せるような人間になりたいと思いました。そして将来は製造業の企業に入社し、企業の一員として頑張っていきたいと思っています。

合格 記 (topic)



會田 蕾毅 あいた らいき
山形県立山形工業高等学校
建築科 3年

『危険物取扱者試験甲種取得への道のり』

1. 危険物取扱者試験を受験したきっかけ

私が危険物取扱者試験を知ったのは、山形工業高校に入学する前に『山形工業高校で取得することができる資格一覧』を見た時です。私は建築科に所属しています。建築は、一見すると危険物取扱者とは関係がないと思われるかもしれませんが、将来建設現場で監督をする時に、管理する者が危険物の知識を持っていることで作業をしてもらう方々の安心に繋がるのではないかと考え、受験することを決めました。

2. 乙種4類の合格を目指して

本校の建築科では、特に危険物取扱者を取得するための講義が無く、参考書と問題集を活用し、自主的に学習して試験に合格しました。高校に入学する前から危険物取扱者の資格を全て取得したいと考えており、入学してからすぐに乙4の参考書を購入しました。参考書は空いている時間に繰り返し読み、スマートフォンで危険物取扱者の勉強用アプリなどを活用して6月の試験に合格しました。

3. 甲種の受験資格を得るために

2年時には危険物取扱者甲種を取得することを目指しました。甲種には受験資格があり、高校生のうちに受験するには乙種を4種類取得する事が必要です(1類又は6類、2類又は4類、3類、5類)。私は受験申し込

み時に甲種の受験資格を深く調べておらず、最初に4類、続いて併願で1類と3類と5類、最後に併願で2類と6類という順で受験しました。1年生のうちに乙種全種を取得したいと思っていたため、合格発表を見る前に次の試験の申し込みをしました。その結果、1年時に全類合格することができました。

主な勉強法は、参考書とテキストを3冊ずつ購入し、受験する類の問題を全て1周してから、その3冊のうちの1冊を完璧にするという方法で勉強しました。その結果、不合格すること無く、なんとか1年生のうちに乙種全類合格を達成することができました。特に1類、3類、5類に指定されている危険物の数がとても多く、性質もそれぞれ違うので、勉強するのにとても苦戦しました。

4. 甲種合格に向けて

1年生のうちに無事に甲種の受験資格を獲得し、続けて甲種にストレートで合格するべく学校の勉強と部活動を両立しつつ、甲種の勉強を半年くらい続けました。そして、1回目の甲種の受験で、「危険物に関する法令」が92%、「危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法」が70%でしたが「物理学及び化学」が40%で2問足りず、不合格になってしまいました。この結果を受けて、自分がこの試験に合格するのは無理だと思いました。

なぜなら、甲種の試験は「危険物に関する法令」が15問、危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法が20問なのに対し、「物理学及び化学」はたったの10問しかありません。法令が90%正解していても、物理化学が40%では合格することができません。甲種の物理化学はレベルが高く、私は物理が苦手です。そこで、2回目の受験では徹底して物理化学に特化した勉強をしました。「受かる訳がない」と心の中で思っている反面、「絶対に合格してやる」という気持ちも強くなっていました。私の周りには危険物取扱者を受験する人があまりおらず、甲種に関しては学校内にも取り組む人はいませんでした。ですが、学校の友人や部活のメンバー、家族に応援してもらい、モチベーションを保つことが



〈CAD実習〉



〈製図実習〉

できました。

私が合格した経験から、甲種合格のために大事だと思うことは、とにかく問題集を解き続けることです。1冊でいいので完璧にすることが大事だと思います。私の実践した方法では、まずは1周問題集を解いて、分かる問題に印をつけ、何周もして全ての問題に印が付くようにします。

そして、また最初から1問ずつ解いていって1問でも間違ったら最初からやり直すというやり方が1番効果的でした。また、問題を解いて分からなかった時や試験前に苦手な箇所を見直すためにノートにまとめることもとても重要だと思います。

特に、甲種の物理化学の計算問題はレベルが高いので、インターネットで高校物理、化学の授業を見て学習しました。このような勉強をして迎えた試験でしたが、終わった時には達成感があり、今度こそは合格しただろうと確信を持つことができました。

そして、合格発表は2年生時の修学旅行の新幹線の中でした。合格発表ホームページに自分の受験番号が載っており、ここで自分の努力が報われたことを知り嬉しくなりました。同じ新幹線に乗っていた友達やクラスメイトに「おめでとう!」と言ってもらえたことで大きな達成感を味わうことができました。

5. 合格後と今後について

この甲種合格を通じて、努力が報われることの嬉しさと達成感を存分に感じるようになりました。甲種に合格したことで自己肯定感が上がり、その後のテストでも本気で取り組むことができるようになりました。これからも日々目標に向け努力し続けられる人になりたいと思います。また、「合格した」と告げた時に自分のこ

とのように喜んでくれた家族や友人、受験料や参考書代を払ってくれて試験前には食事管理をしてくれた母親には感謝の気持ちでいっぱい、恵まれた環境にいるのだと再認識するきっかけにもなりました。



消防試験研究センター山形県支部長より、表彰を受けました。

6. 最後に

危険物取扱者甲種と聞くと、難しいイメージがあり、自分には無理だと感じてしまう人は多いと思います。しかも、受験する人はだいたい化学系を学んでいる学科の生徒で、それ以外の学科の人は関係ないと思っている人が多いと思います。

しかし、化学と全く関係ない建築科の私でも努力をすれば取得することができます。地道に努力を積み重ね、苦手を克服し続けることで得られるものは大きいと思います。努力をすることが苦手だった私でもここまで成長できたことを誇りに思い、これからの学生生活も頑張りたいと思います。



合格試験記



小椋 昇真・酒井 真・石田 琉惺
愛媛県立松山工業高等学校
工業化学科 3年（甲種取得時は2年）

「凡事徹底」 小椋 昇真

松山工業高校の入学試験の面接で、私は「入学したら甲種危険物取得を目指します。」と宣言しました。それは、3歳上の兄が同じ学科に在学中に取得していたので、漠然と「私も取得したい。」と目標にしたからでした。兄は工業化学の勉強は好きだと言いましたが、自分の趣味の時間も持ちながら資格試験に取り組んでいたのも、私も「学校の授業をちゃんと受けていれば、取れる資格だろう。」と考えていました。

その考えが甘かったことは、1年生の10月に受験した乙種第4類の勉強で気づきました。

授業で全く習っていない内容が多岐にわたり、たくさん出てきました。法令は独特の言葉使いになれず、練習問題を解いても不正解ばかり。「受かる気がしない…」と不安ばかりが広がり、憂鬱な気持ちで過ごしていました。

私は野球部に所属しており、休日は週1回程度です。クラスメートが放課後残って勉強していたので、部活動がない日はみんなと問題を解いたりしました。部活動のある日は帰宅後に勉強する体力が残っておらず、「みんなは他の日も勉強しているのに」と思うと、気持ちは焦りましたが、その分集中して取り組むようになりました。兄も覚え方などを教えてくれました。

おかげで、乙種第4類に合格し、その後、乙種全類を取得できました。試験範囲をノートにまとめたり、ホワイトボードに問題を書いて解いたり、限られた時間を有効活用する勉強スタイルができ、落ち着いて試験に臨めました。類ごとに内容や難易度が異なっていて試験勉強の大変さは違いましたが、合格するたびに自信が持てました。

ところが甲種だけは、全く違いました。問題集を開くと問題文の中に全然知らない用語が出ていたり、解答・解説には見たこともない計算式が使われていて、何から勉強を始めたら良いのかわかりませんでした。覚えられるかどうかというレベルではなく、試験までに目を通し終わるのか。のレベルで、勉強する気にもなりません。兄が甲種取得したことを、改めてすごいと思いました。

一緒に挑戦するクラスメートは、これまでと同じように放課後残って勉強していました。部活動の練習に向かう時、教室で問題集を広げる姿を見て胸がざわつきました。野球をやっている、どこか試験が気になっている自分がいて、練習後の帰り道は「帰ってから勉強する体力あるかなあ。」と、気が重くなって



いました。週に一度残ることができても、ゴールの見えない勉強量を前に、やる気が湧きません。「今からやっても間に合わない。どうせ不合格なら努力する時間も無駄な気がする。」と、マイナスな言葉しか浮かびませんでした。でも、目の前で黙々と勉強する仲間の姿を見ていると、私も頑張らなければと思い始めました。「ご飯終わったらまたやろう。」と約束して、疲れていても勉強する気持ちになりました。登下校の電車の中でも勉強し、最後の一週間は睡眠時間を削って勉強に集中しました。

結果は「合格」。先生から合格通知を受け取った時は、嬉しさというより「本当に受かったの?！」と、信じられない驚きでいっぱいでした。そして「あの時あきらめなくて良かった。」と強く思い、仲間の存在に改めて感謝しました。

私は野球部に入部した時「凡事徹底」という目標を立てました。これは、なんでもよいような当たり前のことを徹底的に行うことの大事さを表す言葉ですが、私は危険物取扱者試験を通して「意味がないかもしれない」と思っても、あきらめずに最後まで努力することの大切さを教えてもらったと思います。

「仲間と挑んだ危険物」 酒井 真

私はこれまでの人生で、「試験」と言えば学校の定期考査や模試、英検でした。私は、教えてもらったことを復習してじっくり覚えていくのが好きなのですが、初めて危険物取扱者試験に取り組んだ時は、細かい数字や専門用語をたくさん覚えなければならず、とても戸惑ったことを覚えています。ただ、その内容が現場で必要な知識であり、社会の安全のために先輩方も学んできた資格であると思うと、自分がやっと一人前の工業高校生になった気がして嬉しく感じました。家族からも「高校一年生で国家資格を取得するなんてすごい!」と言われ、誇らしくなりました。

私は高校卒業後、大学に進学したいと思っています。高校で学んだ工業化学の知識を深め、将来は海外で仕事をしたいと考えています。そのため通常の授業以外に、早朝に行われる進学補習を受講したり、模試や英検を受験する必要があります。自分の夢のために勉強しているので、弱音を吐いてはいけませんが、時期によっては危険物取扱者試験の勉強と重なってしまい、どうしても時間が足りなくなることがありました。私は幼い頃から睡眠不足が続くと体調を崩してしまう体質で、「もっと勉強時間が欲しい。」と思うのに、できない悔しさと焦りだけが膨らみました。



それでもテキストを読んで自分なりにノートにまとめ、練習問題を何度も解いては見直すという勉強方法で、乙種第4類から順調に乙種全類を取得することができました。私は工業化学同好会に所属しており、その会員たちと教室に残って勉強するのが楽しい時間でした。勉強が進んでいる友人がいたり「自分も負けずに頑張ろう」と刺激を受けたり、あまり進んでいない友人がいたり「こんなふうじゃええたらいいよ」とアドバイスしたりします。中学生までは、先生から「勉強は一人で集中して取り組みなさい」と教えられていましたが、高校生になって仲間と一緒に励まし合うことの大切さ、人に教えることで自分の理解が深まることを知りました。同じ高校に通っていた従兄からも「松工は資格試験も団結力で立ち向かう」と言われていましたが、教え合うことで試験勉強が楽しいと感じられるようになりました。



しかし甲種の試験勉強期間は、仲間たちと一緒に勉強する時間が作れず、不安な日々を過ごしました。それでも、工業化学科で私たちの資格試験の勉強を指導してくださっている先生が「勉強しているか？頑張れよ」と声をかけてくれたり、おすすめのテキストを教えてくれたりして、励まし続けてくれました。私たちがプレッシャーを感じすぎないように温かく見守ってくださっていると感じ、感謝とともに「しっかり取り組もう」と思いました。甲種の練習問題はとても難しく「習っていない!」と困ってしまうものもありましたが、落ち着いて解説を読み、これまでに習ったことを思い出し、本で調べたりして少しずつ理解できるようになりました。

試験後の感想は「難しかった。」の言葉しか出ず、不合格を覚悟しました。その分、合格したと分かった時は、飛び上がるほど嬉しかったです。合格する自信がほとんどなかったのに、これまでの試験で一番感激しました。

危険物取扱者試験を終えた今、私はもっとこの分野を理解し、残りの高校生活で仲間たちと支え合いながら最大限まで工業化学の知識や技術を高め、大学での学びに向かいたいと思います。

「甲種危険物取扱者への挑戦」 石田 琉惺

私が危険物取扱者を受験するきっかけになったのは、松山工業高校工業化学科に入学したからです。工業化学科では全員乙種第4類を1年生の第2回に受験することが決まりとなっています。乙種第4類は就職試験には必須ということだったので、将来のために必死で勉強を頑張りました。



本校では、授業で先生が乙種第4類の概要や詳細を教えてくださいました。ほとんど知識がない状態からのスタートだったので、正直合格できるか不安でしたが、授業をまじめに取り組み、理解を深めることで徐々に不安は取り除かれていきました。一通りテキストの内容が終わると、模擬問題をひたすら解きました。試験は選択問題だったので、正直、余裕だと思っていましたが、全くそんなことはありませんでした。授業でテキストは一通りやっていましたが、最初の方の内容はほとんど覚えておらず、もう一度テキストを読み直して、隙間時間に先生から提供された模擬問題を解き続けました。すると少しずつ合格する回数が増え、自信につながっていきました。試験本番では全力を出し切り、無事合格することができました。

私は乙種第4類取得後、乙種全類取得に向けて取り組んでいきました。乙種第4類同様、最初は知識がなかったので、テキストを参考に勉強していきました。ある程度勉強してから模擬問題を解き始めましたが、一筋縄ではいかず、試験本番では2種類受験のうち一つしか合格しない時もありました。しかし、友達と勉強したり、前回の反省を生かしたりしながら無事に乙種全類を取得することができました。

乙種全類取得後、最後に甲種に挑戦することにしました。私のほかにも甲種を受験する友達が数人いましたが、友達は2月上旬にある試験に向けて、すでに勉強を始めていました。そんな中、私はいつまでも正月気分が抜けきらず、ついに試験まであとわずかという状態になっていました。「これはさすがに合格できずに記念受験になってしまう」と思い、追い込みをかけました。「友達との差を埋められるのだろうか?」「いや、合格できるのだろうか?」など、不安が募りますが自業自得です。そこでまずは、一科目の法令を完璧にするべく、一日中模擬問題を解き続けました。続いて、二科目の物理・化学に取り組み同じように模擬問題を解き続けました。そして、最後の性質についても同じように模擬問題を解き続けて、三科目とも知識を詰め込んだ状態にしました。そして、本当にあとわずかとなってから、復習を兼ねて本番と同じように模擬問題を解いていきました。最後の追い込みで自分自身が満足のいくまで模擬問題を解き、本番を迎えました。試験本番では、初見の問題もあり、正直、不合格だと思いましたが、何とかぎりぎり合格することができました。

最後に、今回の甲種受験に際して、時間に余裕を持つことの大切さを学びました。また同時に将来、余裕を持って行動できる社会人になりたいと感じました。そして、切磋琢磨してくれた友達に感謝したいです。